

体験グローバル 課題研究「全体発表会」を実施しました

2017年2月28日に「体験グローバル」の課題研究「全体発表会」を行いました。この発表会には、運営指導委員会に先立って運営指導委員の3名の先生方にもご出席をいただきました。発表は「技」「特許」「環境」「食」のテーマからそれぞれ1班ずつが代表するかたちで4班が行いました。

課題研究の発表については、2月14日、15日の「クラス発表会」ですべての班がそれぞれのホームルームで発表を行っています。代表となった班は「クラス発表会」での相互評価を受けて、レポートの加筆・修正を行ったり、パワーポイントを作成したりして発表の準備を進めてきました。

以下に発表を行った班の発表題目と概要を紹介します。



「技」: 広島のおんリーワン企業 三興化学工業株式会社 —アレルギー対策手袋 ラテックスフリー手袋—

医療現場で使用されるゴム手袋に起因するラテックスアレルギーについて、そのアレルギーを起こさない医療用手袋を製造している企業が広島県内にあることを知り、その企業や医療現場に問い合わせることで現状を調査したり、アメリカを中心とした海外の状況も踏まえたりして班の考えを発表した。

「特許」: 特許で解決する福山の課題点

福山の活性化を目指すうえで観光資源をどのように活用したり、生み出したりするかについて、特許技術である「VR(仮想現実)技術」を活用することを、先行事例などから提案するとともに、実現の手立てとしてクラウドファンディングの活用にも言及して発表した。



「環境」: リサイクルの評価 —今後の可能性と見えてきた課題—

当たり前の考えとして定着しているリサイクルについて、「コスト」や「回収システム」「消費者の意識」などの視点から評価し、リサイクルは資源やエネルギーの有効活用として欠かせないことであることは大前提としつつ、「リサイクルが終着点ではなく、リサイクルを通してライフサイクルを見直し、行動していく」ことの重要性を発表した。

「食」: 食糧廃棄の現状と解決策 —消費者だからできること—

世界的な食糧不足と、国内における食糧廃棄とのギャップに関心をもち、日本の食糧廃棄の削減に向けた給食制度の在り方や、技術革新の活用などの視点から大きく3つの提案を行った。また、3つの提案に加えて消費者一人ひとりの行動の重要性についても発表した。



発表では、収集・分析した具体的な数値や、海外も含めた幅広い事例をもとにして研究を進めてきたことや、企業や医療機関への聞き取り調査の結果、福山の観光地に向いて研究者自身が現地で感じた課題に基づいていることなどが発表・報告されました。また、聞き手からは「(提示された数値から)自分はこう考えますがいかがですか」といった、自分の見解も交えて質問する姿があったり、リサイクルや食料廃棄の発表については「自分たちはどんなことに気を付ければいいのか(考えていけばいいか)」というような、研究と自分をつなげた質問をしたりする姿が見られました。

200人以上が参加する中で、発表者にとっては緊張の発表でしたが、聞き手もスクリーンに投影される資料を注視し、発表に耳を傾け、発表後には途切れることなく質問が出て活発な発表会になりました。

以下は、発表会に参加した生徒の感想です。

○自分では思いつかないようなこともみんなが発表していて、ただただ純粋に「すごい」と思った。自分ももっと発想を転換し、多角的な視点から物事を見たり考えたりできるようになりたいと思いました。

○今日の発表を聞き、どのグループも明確な解決策を提示していたし、抽象的な表現でなく具体的な方法で解決策を考えることの大切さを感じた。

○今日の発表では、技術によって健康を守ったり、特許技術で地元を救ったり、リサイクルの問題点や食品ロスの解決策など様々なことを知る事ができました。どの班もわかりやすかったです。



○今日の発表では、原稿を読むのではなく、スライドも加えられていて、語りかけるような発表で思わず聞き入ってしまうようなグループのものもあり、勉強になりました。

○どの班もデータをもとにした具体的な対策などの発表で、質問にもきちんと答えられていたのがすごかったです。私達は、具体的な例や数値といった面ではしっかりしていたと思うけれど、統計やグラフを活用できていなかったと思う。次のこのような機会があれば統計もしっかり使いながら研究したい。



○他のグループの発表を聞いて、ごみ問題だったり、少子高齢化だったりをたくさんの視点から問題解決できるのだと分かった。それぞれの解決案は私達個人レベルでできるものから、大規模なものまであるので、同時並行で可能なものや、今すぐできるものは「やり始めるべきだ」と考えた。自分のグループのレポートについて、もっと掘り下げたいと思った。

○今日の発表を聞いて、良い発表は筋がよく通っているのを感じた。始めから終わりが一つにまとまっており、解決策も実現可能性も検証していてよかった。データや事例をあげていて、根本的な土台が作り上げられていた。何かを発表することがいかに難しいかが分かった。今回は自分の力を活かせなかったが次は成功させたい。



○4つの班を聞いてわかるように一人一人が福山、広島と世界をいろいろな視点から見て考えるいい機会になったと思う。一年を通して得たことを自分達のものにするだけでなく、新たに見つけた問題発見を再びいろいろな角度から見てみる事が大切だと思った。またお互いに話し合うことで、より考えて交流し深めていくことも大切だと思った。

○いろいろな班の発表を聞いて、自分たちの考えはまだまだ不十分だと思った。普段私たちが暮らしている中でたくさん問題があることを改めて感じました。他人事のように考えるのではなく自分たちにできることは何なのかという事を考えて自分から行動を起こす事が大切だと思った。

